

2018 年度  
「シチズンシップ・スタディーズⅠ」  
(地域活性化ボランティア)  
**受講ガイド**

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟 1 階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

(3 キャンパス共通)

窓口時間 (開講期間中)：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: [ritsvc@st.ritsumeimei.ac.jp](mailto:ritsvc@st.ritsumeimei.ac.jp)

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumeimei.ac.jp/slc>

## 目次

はじめに（重要なお知らせ）	3
ボランティア活動を通して地域で学ぼう！	
ボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。それがサービスラーニング！	
1. 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ	5
2. 学研災付帯賠償責任保険について	7
3. 評価について	7
4. 受講の中止について	7
5. 大学での授業スケジュール	8
6. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	10
7. 学部別単位授与について	11
8. FAQ（よくある質問）	13
9. 活動する上で心がけたいこと	14
10. プロジェクト紹介	16～

## プロジェクト一覧

キャンパス	プロジェクト名	クラス	担当教員	曜日	時限	掲載ページ
衣笠	時代祭応援プロジェクト	GA	山口	火	5	P16
衣笠	里山×若者プロジェクト	GB	秋吉	火	3	P18
	少子高齢化する自治会発！ ご近所福祉フロンティアプロジェクト					P22
BKC	草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト	G1	宮下	火	5	P24
OIC	茨木火起こしプロジェクト －茨木北部地域の活性化－	GV	秋吉	水	5	P28
	スポーツ!?音楽!?アート!?で ダイバーシティフェス!プロジェクト					P30
3キャンパス 合同	ネパール未来プロジェクト －フェアトレードと子どもの貧困から考える－	GS	秋吉	土日等		P32
3キャンパス 合同	減災×学びプロジェクト	GT	山口	土日等		P34

## ⚠ はじめに（重要なお知らせ）

- ✓何事においても積極的に取り組んでください。
- ✓ボランティア活動に責任をもち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
- ✓ボランティア活動全体を通して、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
- ✓キャンパスを離れ、地域で活動し、学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。
- ✓ボランティア活動先でトラブルなどが発生した場合は、直ちにサービスラーニングセンターに相談してください。
- ✓本ガイドや各種書類、サービスラーニングセンターホームページの情報をよく読み、記載内容の見落としがないよう注意してください。
- ✓各種提出書類の期限を厳守してください。
- ✓各種書類の提出は本人に限ります。
- ✓不明な点や質問がある場合は、サービスラーニングセンターに問い合わせてください。
- ✓記載されている内容や日程が予告なしに変更される場合があります。各自、確認を心がけてください。



## ーボランティア活動を通して地域で学ぼう！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」(8回生以上:地域活性化ボランティア。以下、「シチズンシップ・スタディーズⅠ」で統一します)は、立命館大学サービラーニングセンターが開講する正課科目です(課外活動ではありません)。この授業は、みなさんがボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目標としています。

ボランティア活動は、大学のキャンパス内だけでは得られない、かけがえのない経験を受講生にもたらししてくれます。さらに、地域で活動を行うことは、自らが暮らす地域をこれまでとは違った視点で捉えることを可能にするだけでなく、大学で学ぶ知をいかに地域で活かせるかを学ぶ契機となります。

ボランティアプログラムの開発・運営にあたっては、大学やサービラーニングセンターが京都府、滋賀県や大阪府内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定(覚書)を締結した上で実施します。

ボランティア活動の期間は、数日程度の短期で行うものから、数ヶ月程度の長期で行うものまでさまざまです。受講生が自身の興味や関心に沿って、参加するボランティア活動を選択することができます。

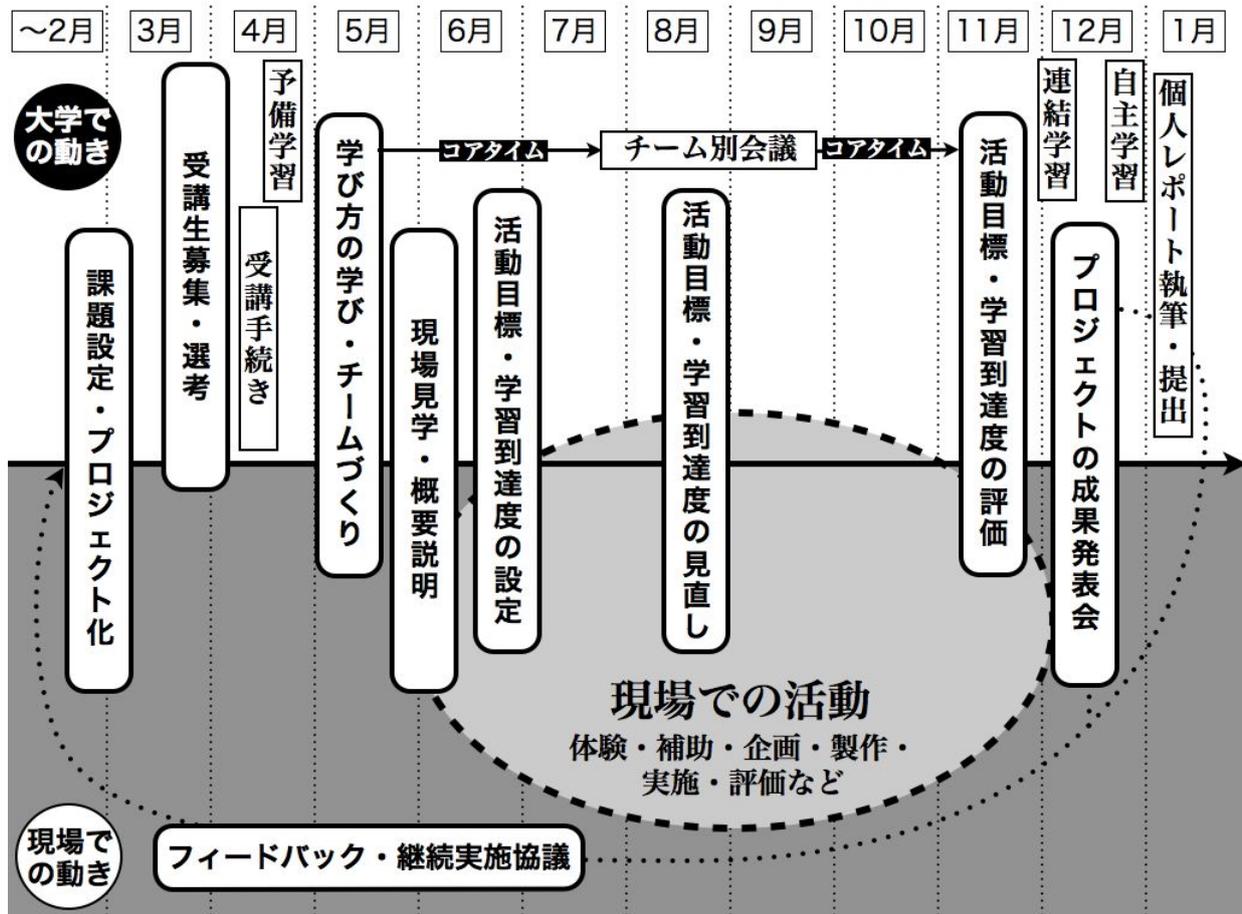
ボランティア活動の魅力を感じながら、大学で学ぶ知に生きた風を呼び込んでください。

## ーボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。

### それがサービラーニング！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、「奉仕活動」ではなく「ボランティア教育」プログラムです。ボランティア教育とは、体験的学習の一形態で、ボランティア活動を中心に事前・事後の学習(研修・振り返り)を組み、明確な教育目的に基づいて行われる教育プログラムです。よって、ボランティア活動を通じて、他者や地域(コミュニティー)の役に立つだけでなく、そこから学習効果を得られるよう設計されます。この点が、純粋な「奉仕活動」との違いです。単にボランティア活動に参加すれば、単位が認定されるというわけではありません！ボランティア活動を通して何を学びたいのか、確かな問題意識をもって取り組むことが重要です。

また、このような教育手法は、欧米ではサービラーニング(service-learning)またはコミュニティサービラーニング(communitary service-learning)と呼ばれています。



## 1.「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ

### エントリー

#### エントリー期間

2018年3月23日(金)10:00～4月6日(金)11:00

#### エントリー方法

サービスラーニングセンターホームページ内「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」のページより、Web上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。

#### ⚠️エントリーに伴う諸注意

- ・エントリーの内容をもとに選考を行います。
- ・1人の受講生が参加できるのはひとつのプロジェクトのみです。
- ・選考を通過した人数が5人未満の場合、プロジェクト実施を中止する場合があります。
- ・所属キャンパスと異なるキャンパスをベースとするプロジェクトに参加することはできません。

### 選考結果発表と必要な手続き

発表日時 : 2018年4月6日(金)17:00

発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HP

※ 早めに確認してください。

※ 受講前ガイダンスの案内も掲示します。

受講許可者を対象に、以下日程で受講前ガイダンスを行います。

GA:4月10日(火)5限 GB:4月10日(火)3限

G1:4月10日(火)5限 GV:4月11日(水)5限

GS:4月15日(日)4限・5限 GT:4月15日(日)4限

### 事前学習Ⅰ・Ⅱ(授業2回分)

- ①ボランティア活動について理解を深める
- ②ボランティア教育について理解を深める
- ③ボランティア教育(シチズンシップ・スタディーズⅠ)における「学び方」を理解する
- ④地域に入って活動するための心構えを整える
- ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む



### オリエンテーション

- ①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。
- ②地域に入って活動するための心構えを整える。
- ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む。

#### 課題

オリエンテーションの終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅲに持参すること。

### 事前学習Ⅲ(授業1回分)

- ①プログラム毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。
- ②大学での学びと地域課題を結びつける視点をもつ。

持参物:ジャーナル

## ボランティア活動（42 時間以上）

- ①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める

⚠ 活動時間の合計はプログラム共通で 42 時間以上が必要です。活動時間には、活動先でのオリエンテーションや反省会なども含まれます。

⚠ 以下の時間はボランティア活動時間には含まれません。その他の活動で、ボランティア活動に含まれるかわからない場合は、担当教員に相談してください。

- ・授業
- ・授業や活動報告会の準備
- ・コアタイムでの教員による指導、アドバイスの時間

⚠ 毎回の活動時間ごとに、「活動時間記録シート」に受け入れ先のサインをいただき、「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

## コアタイム(週 1 回)

- ① それぞれの活動先での取り組みを共有し、学びを深めるための時間を設ける。
- ② 担当教員による指導やアドバイスを行う。

⚠ ジャーナルの提出など、少なくとも月に 1 回はコアタイムを活用すること

⚠ コアタイムの実施日時は、教員から指示、または教員と調整の上決定します

## 中間ふりかえり(授業1回分)

- ① 目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標をもって活動に臨んでいることを再確認する。
- ② 受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会をもつことで、「学び」を深める。

持参物:ジャーナル

## 事後学習 I・II (授業2回分)

- ① 活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する
- ② 自らの活動を評価する(事前学習Ⅲで設定した 2 つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③ プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する
- ④ 「活動報告会」に備えて発表準備を行う



持参物:ジャーナル

## 活動報告会(授業2回分)

- ① ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ② 事前学習Ⅲで設定した「プログラムの目標(プログラム毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③ プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④ 受講の経験やそこから得た「学び」を今度どのように活かすのか



場所: 大いばらきキャンパス(3キャンパス合同で開催します)

発表: 20 分(質疑応答含む)/1 プロジェクト ※発表準備はプロジェクト全員で行う。

評価対象物(レポートなど)提出

## 2. 学研災付帯賠償責任保険について

「シチズンシップ・スタディーズ I」の選考を通過し受講が決定した学生は全て、公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」に加入します。手続はサービスラーニングセンターで行います。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、パンフレットまたは下記 URL をご参照ください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>



## 3. 評価について

「シチズンシップ・スタディーズ I」は P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件、それぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会の**すべてに出席していること**
- ② 「シチズンシップ・スタディーズ I」プロジェクトのボランティア活動(オリエンテーション含む)を**合計 42 時間以上**行なっていること
- ③ 定められた**期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること**

### ⚠ (諸注意)

所属学部や回生によって、開講していない場合があります。詳しくは、P11, 12を参照してください。

事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。



## 4. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはなりません。受講許可後、評価の要件を満たさずに受講中止届を提出した場合、F 評価となります。

## 5. 大学での授業スケジュール

### <衣笠>

GA クラス(山口先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月10日	火	5	MG003
事前学習Ⅰ	5月8日	火	5	MG003
事前学習Ⅱ	5月15日	火	5	MG003
事前学習Ⅲ	6月12日	火	5	MG003
中間振り返り	8月23日	木	5	GJ304
事後学習Ⅰ	11月6日	火	5	MG003
事後学習Ⅱ	11月20日	火	5	MG003
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

GB クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月10日	火	3	MG002
事前学習Ⅰ	5月8日	火	3	MG002
事前学習Ⅱ	5月15日	火	3	MG002
事前学習Ⅲ	6月12日	火	3	MG002
中間振り返り	8月23日	木	5	GJ303
事後学習Ⅰ	11月6日	火	3	MG002
事後学習Ⅱ	11月20日	火	3	MG002
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

### <BKC>

G1クラス(宮下先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月10日	火	5	A214
事前学習Ⅰ	5月8日	火	5	A214
事前学習Ⅱ	5月15日	火	5	A214
事前学習Ⅲ	6月12日	火	5	A214
中間振り返り	8月23日	木	3	A214
事後学習Ⅰ	11月6日	火	5	A214
事後学習Ⅱ	11月20日	火	5	A214
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

## <OIC>

GVクラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月11日	水	5	AC341
事前学習Ⅰ	5月9日	水	5	AC341
事前学習Ⅱ	5月16日	水	5	AC341
事前学習Ⅲ	6月13日	水	5	AC341
中間振り返り	8月23日	木	2	AN327
事後学習Ⅰ	11月7日	水	5	AC341
事後学習Ⅱ	11月21日	水	5	AC341
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

## <3 キャンパス合同>

GSクラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月15日	日	4・5	衣笠 GJ303
事前学習Ⅰ	5月13日	日	3	OIC AN327
事前学習Ⅱ	5月13日	日	4	OIC AN327
事前学習Ⅲ	6月2日	土	3	OIC AN327
中間振り返り	8月24日	金	4	OIC AN327
事後学習Ⅰ	11月3日	土	2	OIC AN327 *3限コアタイム
事後学習Ⅱ	11月24日	土	2	OIC AN327 *3限コアタイム
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

GTクラス(山口先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月15日	日	4	衣笠 GJ304
事前学習Ⅰ	5月13日	日	4	OIC AN316
事前学習Ⅱ	5月13日	日	5	OIC AN316
事前学習Ⅲ	6月2日	土	4	OIC AN316
中間振り返り	8月23日	木	3	OIC AN316
事後学習Ⅰ	11月17日	土	3	OIC AN327
事後学習Ⅱ	11月17日	土	4	OIC AN327
活動報告会	12月8日	土	13:00~	OIC B棟カンファレンスホール

## 6. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定しますが、基本となる時間、教室は以下の通りです。

<衣笠>

【GAクラス(山口先生)】 時間:火曜 5 限 教室:MG003(開講期間中)

【GBクラス(秋吉先生)】 時間:火曜 3 限 教室:MG002(開講期間中)

<BKC>

【G1クラス(宮下先生)】 時限:火曜 5 限 教室:アドセミナリオ 214(開講期間中)

<OIC>

【GVクラス(秋吉先生)】 時限:水曜 5 限 教室:AC341(開講期間中)

<3 キャンパス合同>

【GSクラス(秋吉先生)】 P33 参照

【GTクラス(山口先生)】 P35 参照

活動を進めるにあたり、活動先との関係作りや、心構え、活動に必要な備品などの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。



## 7. 学部別単位授与について

「シチズンシップ・スタディーズ I /地域活性化ボランティア」の単位授与は、所属学部、入学年度によって異なります。

### ・「シチズンシップ・スタディーズ I」【2012年度以降入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
法学部	2012～2015年度入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目B群	要卒	含まれる
	2016年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
経済学部	2012～2016年度入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	自由科目	要卒としない	含まれない
	2017年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
経営学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
産業社会学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
国際関係学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	基礎科目	要卒	含まれる
政策科学部	2012～2017年度入学生	開講しない				
	2018年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	ヴィジョン展開科目	要卒	含まれる
文学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
映像学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
理工学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
情報理工学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
生命科学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
薬学部薬学科	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれない
薬学部創薬科学科	2015年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
スポーツ健康科学部	開講しない					
食マネジメント学部	2018年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる
総合心理学部	2016年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズ I	教養科目C群	要卒	含まれる

・「地域活性化ボランティア」【2011年度以前入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録上限単位
法学部	2011年度以前入学生	2	地域活性化ボランティア	キャリア形成科目 専門科目：共通専門分野・ 関連専門分野・学際科目分 野<キャリア形成、インター ンシップ、ボランティアは6 単位までしか要卒単位授与 しない>	要卒	含まれない
経済学部	2011年度以前入学生	2	地域活性化ボランティア	【2010年度以降入学者】 自由科目	要卒とし ない	含まれない
経営学部	2011年度以前入学生	2	地域活性化ボランティア	自由選択科目	要卒	含まれる
産業社会学部	2011年度以前入学生(国際 インス以外)	2	地域活性化ボランティア	【2011～2007年度入学者国 際インスティテュート以外】 自由選択科目	要卒	含まれない
	2011年度以前入学生(国際 インス)	2	地域活性化ボランティア	【2011～2007年度入学者国 際インスティテュート】 随意科目(自由科目)	要卒とし ない	含まれない
国際関係学部	開講しない					
政策科学部	2011年度以前入学生	2	地域活性化ボランティア	随意科目(自由科目)	要卒とし ない	含まれない
文学部	2011年度以前入学生	2	地域活性化ボランティア	他学部受講科目(自由選択 科目)	要卒	含まれる
映像学部	2011年度入学生	2	特殊講義(地域活性化ボラン ティア)	教養教育科目	要卒	含まれない
理工学部	2011年度以前入学生	2	特殊講義(自由選択)I(地域活 性化ボランティア)	自由選択科目	要卒	含まれない
情報理工学部	2011年度以前入学生	2	特殊講義(基礎)1(地域活性化 ボランティア)	基礎科目の総合教育科目	要卒	含まれる
生命科学部	2011年度以前入学生	2	特殊講義(自由選択)1(地域活 性化ボランティア)	自由選択科目	要卒	含まれる
薬学部	2011年度以前入学生	2	特殊講義(自由選択)(地域活 性化ボランティア)	自由選択科目	要卒	含まれない
スポーツ健康科学部	開講しない					

## 8. FAQ（よくある質問）

### Q1. 2つのプロジェクトにエントリーできますか？

A1. いいえ。1人の受講生がエントリーできるのは、1つのプロジェクトのみです。

よって、1人の受講生が2つ以上のプロジェクトを受講することはできません。慎重に選んで、エントリーしましょう。

### Q2. 事前学習や事後学習を受けずに、ボランティア活動にだけ参加できますか？

A2. いいえ。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、ボランティア活動も含めて事前学習Ⅰから活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。

しかし、正課授業としての「シチズンシップ・スタディーズⅠ」以外にも、サービスラーニングセンターでは多くのボランティア情報を提供しています。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の受講に関わらず、ぜひ参照してみてください。

### Q3. お金がかかりますか？

A3. プロジェクトによって異なります。

受講料などはありませんが、ボランティア活動先への交通費や終日活動する場合の昼食代などがかかる場合があります。また、宿泊を伴うプロジェクトでは、別途宿泊代と食費がかかります。

### Q4. ボランティア活動の経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。

ボランティア活動の前後に事前学習や事後学習（ふりかえり）があるので、ボランティア活動未経験の受講生も安心して受講できます。活動中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

### Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。

ただし、授与分野等は学部によって異なります。（一部、開講しない学部・回生もあります）



### Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。ボランティア活動の実習日と他の授業が重なった場合でも、サービスラーニングセンターから「授業配慮願い」などは出せません。

重複しないよう注意してスケジュールを確認のうえ応募してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。なお、「他の授業の受講」を理由に「シチズンシップ・スタディーズⅠ」を欠席することも認められません。

### Q7. 学研災付帯賠償責任保険には必ず加入するのですか？

A7. はい。ただし、個人による手続は不要です。

この保険は、正課活動中の損害（ケガや事故など）を補償するための保険で、受講生には全員加入を義務付けています。加入手続きはサービスラーニングセンターが全て行なっております（P7参照）。

## 9. 活動する上で心がけたいこと

### ①気持ちのよいあいさつをしましょう！

挨拶はすべての基本です。気持ちのよい挨拶はコミュニケーションの大切な第一歩です。

### ②言葉づかいに気をつけましょう！

受入先の方は地域課題を教えてくれる目上の社会人です。対等な「友達」ではありません。尊敬と感謝の気持ちを持って言葉遣いに気をつけましょう。

### ③約束・ルールを守りましょう！

ボランティア活動は人と人の信頼によって成り立ちます。約束やルールを守ることは基本中の基本です。自分の勝手な都合で約束やルールを違えることは、受入先の迷惑になるだけでなく、信頼関係を壊します。特に、無断での遅刻や欠席は、受入先に多大な迷惑をかけてしまいますので「厳禁」です。

### ④秘密は守りましょう！

活動中に知った情報の中には、個人の秘密にしておきたい情報もあることでしょう。

こうした情報は絶対に口外してはいけません。秘密は守る！これも信頼を築く基本です。

### 各種 SNS (Twitter、Facebook、Instagram など) の利用について

#### ■活動に関する写真や情報の掲載について

活動に関わる写真や情報を無断で掲載することで、トラブルになることがあります。

掲載する場合は、インターンシップ先にきちんと許可を取りましょう。

#### ■SNS 上の情報は、匿名であっても責任は伴います

SNS に一度 発信した内容は完全には削除することができず、世界中に広まります。

匿名であっても IP アドレスや位置情報などから個人を特定されてしまいます。

一時の感情にまかせた悪口などの書き込みは絶対にしてはいけません。



### ⑤服装や持ち物は TPO をわきまえましょう！

活動先の仕事の中には、特に服装や持ち物について注意を促されることがあります。

そのことには全て理由があります。自分の意見やポリシーよりも、この注意を守ることが優先してください。

### ⑥わからないことは遠慮なく質問しましょう！

わからないことがあるのは、当たり前です。わからないことがあったら、授業を担当する教員や、受入先の担当者、サービスラーニングセンターのスタッフに遠慮なく聞きましょう。

### ⑦自主性を持って活動しましょう！

活動中、何をしたいかわからないこともあります。そのときは、「言われるまで何もしない」のではなく「何かお手伝いすることはありますか？」と聞きましょう。自分から動く姿勢を持つことで、より成長を実感できるでしょう。

### ⑧周りの人との関係を大切にしましょう！

ボランティア活動は、周りの人の気持ちを考え、相手の立場に立った行動をすることがとても大切です。みんなが気持ちよく活動できるように心がけましょう。



メモ

A large rectangular area defined by a dashed gray border, intended for taking notes. The border is composed of small, evenly spaced gray squares. The interior of the rectangle is completely blank white space.

プロジェクト名:

# 時代祭応援プロジェクト

募集人数

8名程度

受入団体名: 平安講社第八社 時代祭・維新勤王隊列

## <受入団体からのメッセージ>

京都三大祭のひとつ時代祭は「京都の誕生日」を祝う市民のお祭で、平安神宮の秋大祭です。時代祭は市民団体である「平安講社」が運営しており、京都市内を「社」と呼ばれる11地域に分け、社ごとに担当する時代を決めています。当プロジェクトを受け入れる第八社は中京区内にあります。しかし、少子高齢化が進み、祭の準備や運営は楽ではありません。そこで、学生の皆さんに加わっていただき、力をお借りしたいと考えています。

これらの活動は受講生の皆さんの学びの場でもあります。ぜひ支援活動を通じて住民と直に接し、地域の実情や課題を考えてください。そのために、皆さんには「地域の人々と対話する」ことを求めます。手伝いや準備作業をしながら、地域や祭について素朴な疑問をどしどしぶつけてください。

なお、地域には行政機関などと協働する、防災や社会福祉など各種のボランティア団体があります。これらの活動に参加する機会も紹介するので、地域社会に対する理解を深めてください。

<活動期間: 2018年5月20日～2018年10月28日 活動日数: 15日程度>

## <主な実習場所>

平安神宮(地下鉄東山駅下車徒歩10分) 西ノ京中学(地下鉄二条駅下車徒歩7分)  
八社会議室(地下鉄 西大路御池駅下車徒歩3分)

## <日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ( )Facebook ( )LINE (○)電話

## <活動する現場で学生が求められる理由>

役員をはじめ地域住民の高齢化が進み、衣装の管理や演奏の練習を手伝う要員が欲しい

## <活動パターン>

( )毎週1日程度・定例

(○)月1～2回・不定期

( )主に夏期休暇・集中

( )その他

→具体的には…

「活動の流れ」参照

## <活動のテーマと主な内容>

# 時代祭の維持・存続のため「若い力」を求める

時代祭は10月22日に行われる平安神宮の秋大祭です。約2000人の京都市民が平安から明治までの時代衣装姿で都大路を歩きます。本プロジェクト受け入れ団体である第八社は「明治時代・維新勤王隊列」を担当します。しかし、地域から選出される役員の年齢層が高く、衣装管理や練習準備などの各種作業が負担となっています。ぜひ皆さんのお力をお貸しください。



維新勤王隊列は約150人の隊列です。  
(女子は維新志士列などに参加)



8月には平安神宮収蔵庫から維新勤王隊衣装を出し「虫干し」をします。



時代祭で使うワラジの加工作業をしながら地域の役員と交流しています。

## <期待できる学び>

①京都の歴史・文化を深く学ぶことができる

②地域住民との協働作業を通じて、地域社会の現状や課題を知ることができる

③異なる年齢層との出会いや作業を通じて、対人関係力を鍛えることができる

<受講生に求めること>

費用	活動場所までの交通費
参加の姿勢	<p>当プロジェクトでは、学内よりも学外での活動を重視します。学外では新鮮な経験が数多くできますが、同時に煩わしいことや気を遣う場面も少なくありません。仲間と助け合うチームワークも必要です。そこで、受講生には以下の要件を求めます。</p> <p>①行動力...受講期間中は平安神宮や祭を担う地域、場合によっては祇園祭の関係先などに出向きます。そして作業を手伝ったり、地域の人々と接したりする機会が多々あります。体を動かすことをいとわない学生を求めます。</p> <p>②自主性...活動の性質上、一切において受講生側が主体的に動くことが必要です。何かを「してもら」「教えてもらう」という姿勢では何も学べません。何かを「する」「学びとる」という意識を常に忘れないでください。</p> <p>③工夫する力...活動を面白くするのもつまらなくするのも、すべては受講生次第です。面白くないと感じたら、自分たちが工夫して面白くしてください。退屈だと思ったら、斬新なアイデアを提案してください。</p> <p>④チャレンジ精神...学外に出ると、立場が異なる人々に出会い、想定外の出来事にも遭遇します。不安感が先立ち戻込みするか、それとも「当たって砕ける！」と踏み出すか——ここが成長の分かれ目です。ダメでもともと、失敗するのが当たり前、そんな大らかでタフな人を求めます。</p> <p>⑤対人関係力...当プロジェクトでは、祭の関係者や地域住民と徹底的に対話をしてもらいます。しかも、皆さんがこれまで接したことがない、年代も立場も違う人たちばかりです。こうした対話を重ねる中でしか、地域の生の姿はつかめません。初対面でも臆せず話せる人、話好きな人は大歓迎です。今は口下手だけど、頑張って会話上手になりたいという人もOKです。</p>
終了後の評価	<p>学校、仕事、家族など、人には色々な所属や「顔」があります。その一つに是非「地域社会の構成員」も加えてください。そして、このプロジェクトを通して学んだ地域との付き合い方を今後どこかで実践していただければと思います。</p>

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月20日(日) 午前10時	平安神宮	オリエンテーション(境内案内、正式参拝、時代祭説明、地域での対話や取材の方法など)⇒終了後に懇親会
6月・7月の活動		<p>地域では多くの団体・個人が各種の地域活動を行っています。いろいろご紹介しますので、積極的に参加して地域社会の現場を体感してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の地域団体(消防団、自主防災組織、社会福祉協議会等)の活動見学や参加</li> <li>・祇園祭(ちまき作りや鉦搭乘)</li> <li>・中京区役所「中京マチビトCafé」参加(例年は6月、10月)</li> </ul> <p>その他、コアタイムに朱雀地域内の会議室に集まり、地域住民との交流や各自が参加した地域活動での体験報告なども計画中</p>
8月5日(日) 9~12時	平安神宮収蔵庫	維新勤王隊衣装虫干し
9月上旬~中旬	各学区	地域への挨拶、寄付金集め(詳細はメール連絡)
9月20日(木) 午後6時	西ノ京中学体育館	入隊式(神事)と参加者一同の顔合わせ
9月21日~10月20日 午後7時~9時	西ノ京中学体育館	楽器演奏、隊列行進の練習、ワラジ製作(各回2~3名の当番制で準備と受付補助など)
10月8日(月・祝) 午前9時	平安神宮収蔵庫	衣装渡し(各学区への衣装仕分けなど)
10月15日(月) 午後1時	平安神宮本殿前	宣状式(神事)
10月20日(土) 午後6時	西ノ京中学体育館	最終練習後に行進練習、衣装着付け説明
10月21日(日) 午後6時	朱雀公園	隊士集合場所の設営、進行路へのビラ配付
10月21日(日) 午後7時	西ノ京中学	前日準備
10月22日(月) 午前7時~午後9時	集合場所~御所~神宮~西ノ京中学~直会(なおらい)	時代祭当日(雨天時は翌23日)午後6時から直会朝の集合場所 男子:西ノ京中学 女子:平安神宮
10月23日(火) 午前10時	洛陽総合高校ほか	衣装回収・陰干し
10月28日(日)	平安神宮収蔵庫	衣装戻し

プロジェクト名:

## 里山×若者プロジェクト

受入団体名:北青少年活動センター

募集人数

7名

## &lt;受入団体からのメッセージ&gt;

皆さんは、どんな大人になって、どんな人生を歩いていきますか？  
 就活をして、会社に入って、まちで暮らすだけが人生じゃない！  
 実は、私たちの身近なところにも、いろいろな生き方をしている人がいます。  
 その暮らしに触れ、お話を聞き、感じたことをもとに、同年代の若者(主に20代)と地域で暮らす人との距離を縮めるイベントを企画してみませんか？

&lt;活動期間:2018年5月ごろ～ 2018年11月ごろ 活動日数:15日程度&gt;

## &lt;主な実習場所&gt;

北青少年活動センター(地下鉄「北大路」駅より歩10分、市バス「北大路堀川」より歩3分)  
 フィールドワークは小野郷地域

## &lt;活動パターン&gt;

- ( )毎週1日程度・定例  
 (○)月1～2回・不定期  
 ( )主に夏期休暇・集中  
 ( )その他

## &lt;日常的なコミュニケーションの手段&gt;

(○)電子メール ( )Facebook ( )LINE (○)電話

## &lt;活動する現場で学生が求められる理由&gt;

地域の魅力や課題を、若者目線で切り取り、感じたことをもとにイベントを企画してもらいたいです。

小野郷への訪問を通して、都市部と周辺部の関係性や、持続可能な社会のあり方、あるいは自分の生き方についても考える機会としてほしいです。

→具体的には…

必要に応じて月1,2回の企画  
 会議と、随時小野郷での現地  
 調査を行う予定です。

## &lt;活動のテーマと主な内容&gt;

## 若者と地域の未来のために暮らしを再考する

京都市北区の北山三学区に位置する里山(小野郷)の自然や、そこで暮らす人々の暮らしを体験し、まちで暮らす若者と小野郷で暮らす人々との距離を縮めるイベントを実施します。

昨年度は、立命館大学生を小野郷に招いての野菜収穫イベントの開催と、そこで収穫した野菜を使った豚汁の販売を行いました。

言葉からだけではなかなかイメージできない「地域と関わる」体験ができるものと思います。



## &lt;期待できる学び&gt;

- 都市部と周辺部の関係性や、持続可能な社会のあり方、あるいは自分の生き方(ライフデザイン)についても考えることができる。
- 地域で暮らす人々の実情や人柄に触れながら、彼らとの調整力を磨くことができる。
- 多様な価値観に触れることで、自分自身の考え方の幅を広げることができる。
- 地域の魅力や課題を発見できるようになる。

<活動の流れ>



<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月 土or日曜日	小野郷	小野郷の関係者との顔合わせ
6月～7月	北青少年活動センター	月1,2回の定例ミーティング。 小野郷で感じたことを共有,まとめ。
5月27日 日曜日	清明高校グラウンド	「北区民ふれあい祭り」にて、小野郷の方と交流。
8月～9月	北青少年活動センター	月1,2回の定例ミーティング。 プログラム内容の企画、広報媒体の作成、広報開始。
8月 未定	小野郷	京都教育大学の学生との合宿。
9月～10月	小野郷	必要に応じてイベントのための下見・準備。現地の方との打ち合わせ。
10月下旬	未定	イベント当日。
11月初旬	北青少年活動センター	ふりかえり、まとめ。
その他 (随時)	小野郷	必要に応じてフィールドワーク、小野郷行われるイベント参加。

<受講生に求めること>

衣笠

衣笠

費用	○北青少年活動センターまでの交通費(駐輪場あり) ○調査を行う際の現地までの交通費 小野郷(JRバス利用/片道780円)
参加の姿勢	イベントを、一から作り上げるプロジェクトです。活動の中で様々な疑問が生まれるものと思います。そうした疑問や、企画・調査の中で困ったこと・思いついたことがあれば、ぜひ我々職員と共有してください。
終了後の評価	担当者とのふりかえり 参加者からのアンケート

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

学外の若者も参加できるイベントの企画を期待します。

メモ

A large rectangular area defined by a dashed gray border, intended for a memo or note. The border consists of small gray squares spaced evenly along the perimeter.

プロジェクト名: **少子高齢化する自治会発！  
ご近所福祉フロンティアプロジェクト**

募集人数

5～8名

受入団体名: 向日市社会福祉協議会

### <受入団体からのメッセージ>

身近な自治会の活動が担い手不足や高齢化のなかで消えつつあります。また若い世代が地域活動に参加していない状況が危惧されています。

プロジェクトでは身近な自治会の現状を学び、地域と協働して、これらの時代にあった自治会活動の取組みに挑戦していきます。またSNS等により、その地域の魅力を周囲に伝える楽しい内容です。

地域の今を学び、その価値を知り、地域を創る学習を通して、次世代への新たな地域づくりのバトンを伝えていきます。

<活動期間: 2018年6月中旬～ 2018年10月下旬 活動日数: 13日程度>

### <主な実習場所>

阪急東向日駅(徒歩10分)

### <日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ( )Facebook ( )LINE (○)電話

### <活動する現場で学生が求められる理由>

少子高齢化する自治会等では、自らの活動を見直す機会、リフレクションする余裕がないのが現状です。

これからに向けて地域活動を発信したい団体が、サービスラーニングの手法を通じ、学生に地域活動を伝え、一緒に活動する中で、これからの時代にあった地域活動を創造したり、次世代に活動をつなげる転換を期待する。

### <活動パターン>

( )毎週1日程度・定例

( )月1～2回・不定期

(○)主に夏期休暇・集中

( )その他

→具体的には…

「活動の流れ」を参照

### <活動のテーマと主な内容>

## 身近な地域で人と人がつながる効果を見える化する

#### (自治会の現状)

市内の自治会では、少子高齢化やライフスタイルの変容など、様々な理由で自治会活動が低迷していたり、自治会脱退者の増加が問題となっています。そのような中で自治会のつながりを見直そうという動きがあります。

(添付資料参照)

#### (目的)

向日市社協では、人と人が地域で交流し、学び合い、支え合う中で人としての優しさや生きがいや育まれるという観点から、市内の自治会との連携して、ご近所福祉に取り組んでいます。

#### (プロジェクト)

プロジェクトでは学生と地域住民が一緒になり、地域の過去と現在を比較したり、優しさや生きがいを育む環境についての意識調査、交流イベントを開催する中で、これからの地域のつながりや支え合いの仕組みを周囲の人に伝えるための活動をします。Ex.カルタづくり

### <期待できる学び>

学生が地域や社会の中で、他者とのコミュニケーション能力を高め、自己の価値観を共有したり、共感する力が養え、様々な場面で自分らしさが発揮できるようになる。

<受講生に求めること>

費用	交通費（衣笠キャンパス～阪急西院：市バス230円、阪急西院～阪急東向日190円） 食事代の自己負担（持参） 他に費用は掛からないようにする。
参加の姿勢	積極的に地域の人と関わろうとする。笑顔でコミュニケーションをする。 活動で知りえた情報の取扱い方には注意する。 偏った見方をせず、多角的に物事を見る。 メンバー・かかわった人との共感を大切にす。
終了後の評価	この学習を通じて、自分自身が成長できたことを自己覚知する。 地域活動がこれからに向かって創造できるポイントをまとめる。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

指導やプログラムありきの学習ではなく、地域住民の皆さんと話し合いやメンバーとのコミュニケーションで、プロジェクトを進めるなかで、自分自身でいろいろなことを創造しながら、好奇心を持って、様々な活動にチャレンジしてください。

決まりきった一般常識に捉われず、またマニュアルや正しい答えを求めるのではなく、多様な価値観に触れて、地域の思い・自分の気づきをカタチして、他者との共感を大切にしてください。

<活動の流れ> 日時を変更する場合があります

日時	実習場所	活動内容
4月～5月		学内でガイダンス、事前学習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 社会福祉協議会訪問
6/23or30(土) 9:00~10:00	福社会館	プロジェクトメンバーとの顔合わせ
8/1(水) 9:00~12:00	自治会館	地域の課題を聞く 住民編 フィールドワーク
8/8(水) 9:00~12:00	自治会館	プロジェクトミーティング1
8/15(水) 9:00~12:00	自治会館	プロジェクトミーティング2
8/22(水) 9:00~12:00	福社会館等	住民インタビュー (ニーズ、夢、希望、支え合い幸せ)
8/25(土) 11:00~20:00	自治会館等	夏祭りイベント参加
8/26(日) 9:00~12:00	自治会館等	夏祭りイベント参加
9/5(水) 9:30~12:00	福社会館	プロジェクトミーティング3
9/12(水) 9:30~12:00	自治会館	イベント準備
9/15(土) 8:30~12:00	自治会館	居場所づくり企画(災害時編)
9/19(水) 8:30~12:00	自治会館	居場所づくり企画(ご近所福祉編)
9/26(水) 9:00~15:00	福社会館	まとめのワーク(カルタづくり)
その他		※その他、地域活動への参加
11月		学内で事後学習Ⅰ,Ⅱ

プロジェクト名:

# 草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト

募集人数

10名

受入団体名:草津市 商工観光労政課

## <受入団体からのメッセージ>

「草津街あかり・華あかり・夢あかり」(以下街あかり)は、2日間で3万人が来場する「街歩き」イベントです。街あかりのコンセプトは「草津の魅力再発見」。普段は何げなく通り過ぎている道をあかりで装飾し、楽しみながら街なかを散策し草津の街にある魅力的な資源(商店・寺・神社・街並・飲食店等)を市民の人に知ってもらうことが目的です。

実行委員には地域の人が集まります。みなさんには「しなければならない決まった何か」はありません。

みなさんの目標は「草津のファンを増やす」こと。そのために草津がどんな街か知ってみなさんでアイデアを出し合い、地域と力を合わせて準備・運営をしていただきたいと思います。

地域の一員として活動することで、みなさんにとって草津が“ただ住んでいるだけ以上のまち”になることを期待します。

B  
K  
C

B  
K  
C

<活動期間: 2018年5月頃～ 2018年11月上旬>

<主な実習場所>

草津市役所・くさつ夢本陣(最寄駅・バス停など:JR草津駅)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ( )Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

地元企業や町内会長などを中心に地域の方によって構成される実行委員会を中心に実施されている催事です。

草津の街には、古くから発展したエリアと新規開発で成長したエリアがありますが、新しいエリアで活動する皆さんが古くからある「草津」へその一員として活動する事で、実行委員会に新しい風を吹き込み、「地域」×「行政」×「学生」で地域活性化を目指します。

<活動パターン>

- ( ) 毎週1日程度・定例
  - (○) 月1～2回・不定期
  - ( ) 主に夏期休暇・集中
  - ( ) その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

## 未来のためにまちづくりの手法を体感する

昨年の活動内容

### クイズラリー

街あかりの恒例となっている人気イベントです、街なかの複数の箇所にクイズを設置し、回答者には学生手作りのキャンドルをプレゼントしました。学生には当日の運営、景品のキャンドル作り、クイズ設置個所の検討、設置場所の関係者との交渉、クイズラリーの台紙作成・印刷の発注などを行いました。

### 光の箱～広場彩る作品たち～

紙製のクラフトボックスを銀紙とカラーセロファンで細工して、光源を当てると光る“光の箱”をワークショップ形式でイベント当日に来場者に作成いただき、会場に並べました。光の箱の試作から、材料の下準備まで、工数は多かったです、当日は大盛況でした。

### プレ街あかり

まちあかりつつがだからできる活動って何だろう?という観点から始まった取組み。実際に使う灯籠をBKCに運んで点灯し、自作のチラシを製作・配布して街あかり開催をBKC内で告知PRしました。

### その他

街あかり実行委員会へ出席してもらい、学生の行っている企画内容、進捗状況を説明してもらいました。



キャンドル制作中



クイズラリーは大盛況

<期待できる学び>

・「まちづくりにおける担い手の役割を体感する」

準備・企画期間の過程において、「地域活性化」や「まちづくり」に携わり、現地・現場での進め方を体感できます。

・「社会人との活動」

実行委員は地元企業の社長や町内会長であり、市職員だけでなく商工会議所の方を含めて、サークル等普段の学校生津の範囲を超えた人とのつながりや社会の通例を体感できます。地元の方へのヒアリングなども行います。

・「組織として行動する」

まちあかりつつがが機能した組織となるよう、考えて行動することで自らの行動や仲間への働きかけ方を考えるきっかけとなります。

<活動の流れ>

BKCC

**5月～6月**

**現地調査  
顔合わせ、実施内容・スケジュールの検討**

街あかりの会場となる草津駅周辺の街並みや雰囲気を実際に見て感じてもらいます。

また、「街あかり」のイベント内容も説明させていただきます。

※4月29日「草津宿場まつり」は、参加(見学)を推奨します。



**7月～8月**

**企画立案・スケジュールの確定**

実際に街あかりを行う企画を考えてもらいます。前年までの取り組みを引き継ぐもよし、新しい企画に取り組んでもらうもよし。

企画の内容は適宜精査し、進捗状況を確認し、状況に応じては企画内容の軌道修正も必要です。

**9月中旬**

**企画内容の確定**

パンフレット作成のため、この時期には企画内容が確定する必要があります。ここまでで決まったことは当日の実行確定!

夏休み期間に各々が作業を進められるかが後々の作業量に反映されていきます。

BKCC

<活動の流れ>

**(9月～)10月**

**当日に向けて準備・学内へのPR活動**

まちあかり当日に向けてラストスパート!

必要物品の確保、当日ボランティアの手配などなど。

学内でのPRをして「まちあかりつつ」にしかできない事をする年もあります。

また、街あかりのPR活動として、メディアの出演をすることもあります。




**11月上旬**

**街あかり当日**

いよいよ街あかり当日です。

これまでの準備の集大成として

来場者のみなさんを笑顔に!





<受講生に求めること>

費用	活動場所までの交通費(主にJR草津駅や草津市役所周辺)
参加の姿勢	<p><b>「参加する事」</b>          組織に名を連ねる事、現場に居合わせるだけで参加しているとは言えません。組織の中で役割を果たし目標に向けて必要な事を考え遂行する「自主性」や「遂行力」を求めます。活動では、経験のない初めての課題がたくさんありますが、挑戦する気持ちで積極的な参加を求めます。</p> <p>また、他の学業などにより時間の確保が難しいことは理解しますが、仲間同士が直接顔を合わせ、話し合い、自らの手を動かすことを重視します。</p>
終了後の評価	上記の姿勢をもとに、出席状況を考慮して判断します。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

<p><b>「草津の街を知る事」</b>          街あかりを通して、草津を知り、知り合った人に自分の言葉で紹介できるようになること。          街あかりをきっかけに多数ある市内の活動がある事をまず知ること。</p> <p><b>「人とのつながりをつかむこと」</b>          SNSや電話だけでは築けない信頼関係や人とのつながりを、打ち合わせや製作などの作業を通して生み出し、街あかりの成功、自身の成長へつなげること。</p> <p><b>「企画実行力」</b>          街あかりを舞台に学生の皆さんが自ら考えた企画案を、自らでスケジュール管理し、自らの手で試行錯誤しながら形にしていく過程を学ぶことを求めます。</p> <p>その中でSLCをはじめとする関係者の皆さまには、受講生・受け入れ先との連絡を密にし、彼らの進捗や課題に対してサポートや助言をいただければと思いますので、ご協力をお願いします。</p>
--

メモ

A large rectangular area defined by a dashed gray border, intended for a memo or note. The border consists of small gray squares spaced evenly along the perimeter.

プロジェクト名:

## 茨木火起こしプロジェクトー茨木北部地域の活性化ー

募集人数

10名

受入団体名: 茨木ほくちの会(茨木市北部地域協議会)

### <受入団体からのメッセージ>

茨木北部地域は高齢化や休耕地、里山の荒廃等、様々な課題を抱えています。その課題を少しでも解決していこうと、今、地域では未来に向けた活性化の火種がたくさん起こっています。私たちは、その火種を集め、火を大きくする火口(ほくち)になりたいと活動してきました。火を起こすには、火種をつくり、火種を集めたほくちに、風を送り込むことが重要です。私たちは地域の外の視点で、新しい風を吹き込んでくれる仲間を探しています。茨木の農村地域が抱える様々な課題を「遊び」と「ビジネス」で解決していきたいと考えています。与えられる遊びや仕事ではなく、自分たちで考え、創り上げていく面白さを学生の皆さんやまちの人たちと共有していきたいのです。決して簡単に解決できるものではありませんが、多様な価値観や背景の人たちが集まり、知恵を出し合えば、何だってできるんじゃないかと思っています。

### <主な活動場所>

茨木市北部 千提寺(最寄バス停など: 阪急バス「千提寺口」)

### <日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○・)Facebook (○)LINE ( )電話

### <活動する現場で学生が求められる理由>

若い柔軟な発想と、行動力に期待しています。  
ダッシュ村のように休耕地と荒れた里山も蘇らせていきますので、体力も重要です!

### <活動パターン>

- ( ) 毎週1日程度・定例
  - (○) 月1~2回・不定期
  - ( ) 主に夏期休暇・集中
  - ( ) その他
- 具体的には…

### <活動のテーマと主な内容>

## 子どもたちと茨木ほくちの魅力を発見する

茨木市北部(ほくち)には、16の集落の人々によって守られきた豊かな里山と、棚田、地域の特産野菜があり、新規就農者や、市内外から森の手入れに通う方々の集う場所です。ほくちの会では、このほくちの豊かさを守っていくために、子どもたちに農と里山の面白さを伝えるプログラムを実施しています。

このプロジェクトでは、耕作放棄地や里山の有効活用や、子ども農業ビジネススクールを、地域の大人や子どもと一緒に作ってきます。大学生のみなさんには、子どもたちに寄り添い、彼らが茨木ほくちの魅力を発見するお手伝いをさせていただきたいと考えています。具体的には、子どもたちがほくちの自然や文化と出会う場や、ほくちの農や里山を南部住民に伝える企画を、ともに作ってください。茨木市の未来を担う子どもたちを、ほくちの会と一緒に育てていきましょう!それが、未来のほくちを開拓することにつながります。

### <期待できる学び>

茨木市北部の状況を理解できるようになる。  
日本における中山間地の農業、農村が抱える課題を理解できるようになる。  
中山間地と市街地が近距離に位置する茨木市の特徴を実感できるようになる。  
ほくち住民(農業者)と茨木市南部住民(市街地住民)双方の背景を理解できるようになる。  
社会問題の解決に向けて、試行錯誤を繰り返しながら考え続ける体力を身につけることができる。

<活動の流れ>

5月 茨木北部の散歩(ほくちの魅力を感じる)

6月 ほくちの会・風の会(ほくちを応援する非住民の集まり)とやりたいことワークショップ  
-7月 風の杜(棚田を活用した活動拠点)の環境整備

8月-11月 風の杜、もしくは茨木南部(キャンパスを含む)でのイベント実施  
3回ほどを予定  
昨年の例)ほくち産の農畜産物、ジビエを使ったBBQ、野外料理  
馬やヤギとのふれあい体験などをはじめとした子どもの自然体験  
風の杜での自然体験施設の制作

12月8日(土) 報告会



希望者は、  
12月 独活小屋づくり  
3月 独活収穫見学



プロジェクト名: **スポーツ!?音楽!?アート!?で  
ダイバーシティフェス！プロジェクト**

募集人数

3～5名

受入団体名: NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝

<受入団体からのメッセージ>

地域の中には、多様な人がおり、家族がいる人、一人暮らしの人、助けを求められる人、求められない人、差別する人、差別される人…などが赤ちゃんから高齢者まであらゆる人が生活しています。全員が同じ方向を向いたり、同じやり方で通用することはない中で、「お祭り」はその多様な人が楽しさ、おもしろさを求めて集う機会となっています。その場に集まってきた人たちの多様性を感じられるようなお祭りづくりに向けてぜひ一緒に「多様さ＝ダイバーシティ」を感じられるようなお祭りをつくしましょう！

<活動期間: 2018年5月～ 2018年 11月 活動日数: 15日程度>

<主な実習場所>

らいとびあ21(大阪府箕面市萱野1-19-4)  
(最寄バス停: 阪急バス萱野三平前(茨木-石橋線))

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

10代後半～20代の人たちが感じる社会や地域への「おかしさ」「違和感」「生きづらさ」「疑問」とアートやスポーツ、音楽といった誰もが関心を持ちやすいテーマを掛け合わせて新しい斬新なアイデアを出してもらいたい。大学生が運営に関わることで、地域の子どものためのロールモデルになってもらいたい。

<活動パターン>

- ( ) 毎週1日程度・定例
  - (○) 月1～2回・不定期
  - ( ) 主に夏期休暇・集中
  - ( ) その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

**地域住民・子どものために隣に困っている人が  
いることを意識できるようにする**

私たちの団体が活動する箕面市萱野のエリアでは、20年前から「お宝人權まつり」という名前で楽しみながら人權について知ったり考えたりできるおまつりを実施しています。地域や社会の中にある様々な課題を身近に感じられるように、ポップにラフにおもしろく楽しくがモットー。今年も地域のこどもから高齢者までが気軽に参加できるようなテーマで多様な人たちが入り交じりあうような祭りづくりに、大学生の発想や感覚を取り入れたいです。

2018年10月20日(土)に実施する今回のお祭りは地域内の保育所・幼稚園・小中学校、自治会、青少年育成団体、箕面市内でマイノリティー支援をしている団体等で実行委員会を組織します。この実行委員会に学生グループとして参画してもらい、テーマの決定や企画づくり(多様な人の参加ができるようなコーナーや出店、ステージ企画等)に関わり、まつり当日も運営スタッフとして関わっていただきます。

<期待できる学び>

- ・地域住民の「つぶやきをひろう」(聞き取る)中でニーズと地域課題がつながるようになる
- ・企画づくりを通して、やりたいこと(ウォンツ)と求められていること(ニーズ)が一致することの難しさを感じながら、「やってみる」から学ぶことができるようになる

## <活動の流れ>

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

顔合わせ

第1回  
実行委員会

第2回  
実行委員会

第3回  
実行委員会

第4回  
実行委員会

第5回  
実行委員会

第6回  
実行委員会

この頃にはテーマ(スポーツ、音楽、アート等)が決まるので、企画を考えたり、ニーズ調査をしたりを予定

企画の詰め、準備など。実行委員会構成団体との調整、広報等、実行委員会事務局補佐業務も希望があれば担うことができます。

10月20日  
「かやのお宝人権まつり」  
当日

活動の振り返り。実行委員会内での成果報告。

## 過去の祭り当日風景等



## <受講生に求めること>

費用	特にはありません(ただし、活動場所までの交通費は自己負担です)
参加の姿勢	「楽しめているか」を自分に問いかけながら参加してください
終了後の評価	自分たちで振り返りを実施。また、実行委員会メンバーからのフィードバックも実施。

## <その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

学生さんたちの体験的な学びをサポートしているサービスラーニングセンターについても、ぜひ関係団体メンバーに知ってもらえればと思いますので、またいろいろお願いすることもあるかと思いますがよろしくお願いします。

プロジェクト名:

## ネパール未来プロジェクト ～フェアトレード・子どもの貧困から考える～

募集人数

10名

受入団体名:シャプラニール=市民による海外協力の会

### <受入団体からのメッセージ>

皆さんが買い物をする時一番気になるのは何ですか？値段？産地？それとも・・・？  
何気なく手にとっている商品がどこから来たか、どんな人が作っているのかを考えることは、世界を変える一歩になります。作る人も、買う人も幸せになれるフェアトレードについて学びましょう。  
実習ではネパールのフェアトレード商品の生産現場を訪問し、生産者と交流します。また、フェアトレードが解決しようとしている社会問題や構造についても理解を深めていきましょう。

<活動期間: ネパール訪問 2018年9月15日(土)～22日(土) 活動日数: 7日程度>

### <主な実習場所>

立命館キャンパス周辺、ネパール(カトマンズ・パタン・ポカラ)

### <活動パターン>

- ( ) 毎週1日程度・定例
  - ( ) 月1～2回・不定期
  - (○) 主に夏期休暇・集中
  - ( ) その他
- 具体的には…

### <日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ( )Facebook ( )LINE ( )電話

### <活動する現場で学生が求められる理由>

ネパールのフェアトレード商品の主要購入国である日本の学生と交流することで、生産者は仕事へのモチベーションを高め、より良い商品を作るにつながります。ネパールで見聞きし、感じたことを皆さんの友人や家族に伝えることが、フェアトレードの価値が日本社会に浸透する力となります。

### <活動のテーマと主な内容>

## フェアな社会を創るための一歩を学ぶ

最貧国ネパールの地方部では、現金収入が得られる仕事はわずかです。特に村の外にでることが難しい女性たちにとって、自宅のできる手工芸品づくりは現金を得られる大切な仕事です。定期的な収入が入ることによって、日に三度の食事ができるようになった、子どもたちを学校に通わせられるようになったなど、たくさんの生産者とその家族の生活を支えています。

このような「フェアトレード」の商品生産販売に取り組むネパールのNGO「WSDO」を訪問し、生産現場からフェアトレードの仕組みを学びます。手工芸品生産体験、生産者の自宅訪問などを通じて、家事と両立を可能とする手工芸品生産の重要性を体感します。

「女性」が「身近な素材や技術」を使って「自宅で」できる仕事を創るフェアトレードの重要性を理解するためには、ネパールの社会背景の理解が欠かせません。小学校訪問や村歩きを通して、観光では見られないネパール社会を体感する機会を設けます。

ネパール実習中はもちろんのこと、実習で得た学びを深めながら、日本でできることを学生自らが考え、企画、実行してもらいます。

### <期待できる学び>

生産者と交流し、生産体験をすることで、消費者である私たちの「買い物」という行動が、見えなかった存在であった生産者の生活に影響を与える可能性があるという事実を、実感を持って理解することができます。実習中で訪問を予定している小学校(またはNGO)では、ネパールに存在する差別や子どもの状況を実際に見て、貧困や格差が生み出される社会構造についての理解を深めます。

これらの経験を通して、日本で私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションにつなげ、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとることが期待できます。

<活動の流れ>

- 4/15(日)4,5限 受講前ガイダンス  
 5/13(日)3,4限 事前学習Ⅰ,Ⅱ(ボラとは?興味関心)  
 6/2(土)3限 事前学習Ⅲ(目標設定)  
     4限 コアタイム「ネパールの文化や社会」イベント準備  
 ↓  
 6/19(火)「食の体験」カレーづくりを通して、ネパールの文化や社会について学ぶ  
     【シャプラニールスタッフ参加】  
 6/23(日)3,4限:コアタイム イベント振り返り、夏休みのボラ活動準備  
 ↓  
 8/24(金)4限 中間ふりかえり  
     5,6限,宿泊  
 8/25(土)1,2限 コアタイム実習準備【シャプラニールスタッフ参加】  
 ↓  
**9月15日(土)～22日(土)(予定)** ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム(毎日のふりかえり)  
     【シャプラ ネパール事務所スタッフ参画】  
 ↓  
 9/30(日)2,3限 コアタイム 実習ふりかえり&学祭 準備  
 10月～11月上旬 学祭・Asia Week等での発信  
 ↓  
 11/3(土)2限 事後学習Ⅰ 3限コアタイム  
 11/24(土)2限 事後学習Ⅱ 3限コアタイム  
 ↓  
 12月8日(土)報告会【シャプラストaff/地域連絡会参加】

【     】内は、シャプラニールの協力

受講生に求めること>

費用	実習参加費(予定) 往復飛行機代約15万円,現地交通費3万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等委託費2万円、食費1万5千円、海外旅行保険5千円 合計約25万円 ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。
参加の姿勢	訪問先の言葉を覚え、食事や文化を体験するような、他者に興味をもち積極的に理解しようとする姿勢
終了後の評価	ボランティア活動や学びの発信、現地実習への主体的な参加および実習グループ間の学びあいに対する姿勢

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでの実習時に得た感動や学びを持ち帰り、「日本の社会、私たちの暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」と引き付けて考えること、そこから見てきたことを実際の行動に落とし込むための問を繰り返し確認する場を設けてください。

プロジェクト名:

## 減災×学びプロジェクト(DMP: Disaster Mitigation Project)

受入団体名:立命館大学サービ斯拉ーニングセンター

募集人数

9~13名

### <受入団体からのメッセージ>

「未災者」という言葉があります。日本で唯一の環境防災科がある兵庫県立舞子高校で用いられた概念で、未だ被災経験のない世代が防災について学ぶ大切さを確認することができます。このプロジェクトは2011年の東日本大震災の支援のために設置された「震災×学びプロジェクト」を母体に、2012年度から継続的に実施されています。未来の災害における被害を減らす「減災」のための実践の知を磨くため、過去の災害で被害を受けた地域でボランティア活動を行います。

<活動期間:2018年5月中旬~2018年12月上旬 活動日数:15日程度>

### <主な実習場所>

神戸市・新潟県小千谷市・岩手県大船渡市・福島県楢葉町など

### <活動パターン>

- ( ) 毎週1日程度・定例
- (○) 月1~2回・不定期
- ( ) 主に夏期休暇・集中
- ( ) その他
- 具体的には…

### <日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ( )Facebook (○)LINE ( )電話

### <活動する現場で学生が求められる理由>

災害からの復興の過程では、やがてまちづくりの活動となります。その際、特に被災された方々は(そのご遺族も含めて)若者たちに語り継ぎたい思いを抱いています。共にまちづくり活動に取り組むことで、経験の有無にかかわらず、過去の悲しみを想い起こし、いのちの尊さに触れることが期待されています。

### <活動のテーマと主な内容>

## 未来の災害のために一人でも多くのいのちを救う知恵を習得する

このプロジェクトでは、月に1回以上の頻度で、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震・東日本大震災で大きな被害がもたらされた地域で活動します。神戸では都市型災害からの復興を「定点撮影」を通して深めます。新潟では住民らによる田植えや稲刈りや盆踊りなどの交流活動に参加し、都市と農村での復興過程の違いを体感します。東北では、大船渡市にて地域の青年会による伝統行事の準備から片付けを支援します。

東日本大震災は復興の只中にあります。そして、その過程では、外部から多くの協力者が関わります。立命館大学は岩手県大船渡市と、福島県とは学校法人立命館として(小学校から大学院まで)協定を締結しました。距離を越えて、心を寄せ合うことによって「Build Back Better」(前よりも良く)の実践が展開され、その実践から得られた経験が、次の災害への知恵となります。

担当教員はコアタイム等での対話により、皆さんの知識の構築に貢献します。また、活動を通じ、各キャンパス周辺での地域防災活動の展開など、受講生の自主的な取り組みを歓迎します。

### <期待できる学び>

知識:災害復興の「サイクル」を理解した上で、現地で展開される多様な「プロセス」を実感できるようになる。具体的には、災害の種類に応じた支援のパターンやモデルについて自らの経験をもとに自分の言葉で説明できるようになる。

スキル:被災地との距離にかかわらず、復旧から復興への移行を「自分事」として捉えられるようになる。具体的には、自治のあり方について深い関心を向け、まちづくりに関する政策を比較し、分析できるようになる。

遂行能力:災害ボランティアの波及効果として生じる、次の災害に向けた「恩送り」の実践に参加できるようになる。具体的には救急救命講習などを積極的に受講したいと思うようになる。

<活動の流れ> (日時の\*印は現地の都合で変更になることがあります。なお、移動日は含んでいません。)

日時	実習場所	活動内容
(4月14日)	熊本県西原村	【任意】担当教員による熊本地震2年の巡検(フィールドワーク)に同行
4月15日	衣笠キャンパス [KIC]	オリエンテーション(担当教員および同行学生は現地からネット参加)
5月13日	OIC	事前学習1・2・コアタイム
5月26~27日*	新潟県小千谷市	住民まちづくり団体「塩谷分校」による田植え交流会に参加・(旧)山古志村等を巡検
6月2日	OIC	事前学習3・コアタイム
7月1日	OIC(予定)・神戸市	コアタイム・人と防災未来センター見学(終了後に神戸の実践家と交流会)
8月3~10日*	岩手県大船渡市	「盛町灯ろう七夕まつり」に参加、準備・後片付けを支援(明治大学などと交流)
(夏期休暇中)	(東北各地など)	立命館災害復興支援室による旅費支援プログラム等により各種の活動に参加
8月16日	新潟県小千谷市	【任意】塩谷集落の盆踊りに参加、準備・後片付けの支援
8月23日	OIC	中間ふりかえり・コアタイム
9月22~23日	新潟県小千谷市	住民まちづくり団体「塩谷分校」による稲刈り交流会に参加・集落の巡検
10月13日*	OIC(予定)・神戸市	コアタイム・定点記録撮影
10月23日	新潟県小千谷市	【任意】塩谷集落での慰霊祭に参加・交流
11月3日	新潟県小千谷市	【任意】「塩谷分校」設立10年記念イベントに参加、準備・後片付けの支援
11月17日	OIC	事後学習・コアタイム
12月8日	OIC(立命館大学)	活動発表会

受講生に求めること>

費用	全ての現地活動に参加すると、一定の費用が必要となります。新潟(京都~長岡)には夜行バスあるいは格安航空会社の移動で片道7,000円程度、東北(京都~大船渡など)には夜行バスなどの移動で片道12,000円程度と見込んでください。ただし、例年、東北での活動では、立命館災害復興支援室による旅費支援プログラムの適用により、事実上わずかな自己負担で活動が可能でした。現地に到着後には担当教員等が引率します。
参加の姿勢	3キャンパスでの共同開講では初年度となります。(OIC開学以前には、BKCとの共同開講を行っていた時期があり、その際にはSNSやネット会議システムなどを効果的に活用してきました。)専門分野を横断して知恵を深めるために、神戸・新潟・岩手・福島の4つの地域ごとにチームをつくります。コアタイム以外でも、学生どうしで密な対話が重ねられることを期待しています。過去の参加者の中には防災サークル(FAST)に参加する学生もいました。
終了後の評価	到達目標にも記したとおり、知識、スキル、遂行能力がそれぞれに高まることを期待しています。その到達点は、いかにして自らの言葉で他者の人生を語り、自分の将来について語るができるかによって評価できます。それらは突然できるようになるものではありません。例えば、現地で出会った方々に手紙を書く、現地で撮った写真を(インスタグラム等にアップするだけでなく)フォトブックにまとめるなど、ストーリーを編み上げていく習慣づけが求められます。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

地域参加型の学習では、日常的な生活の態度が変わることが期待されます。そうした態度の変化は、何か新しいことを始めるだけでなく、それまで(気づいているか気づいていないかに関係なく)行ってきた行動を止めることも含まれます。もちろん、する/しないといったYesかNoかの選択肢だけでなく、その質を高めていくことも重要です。新聞を読むことで語彙が増える、選挙で誰に投票するかを考え抜くことで行政や税制への理解が深まるなど、そうして態度や行動が変わることによって、結果として導かれる効果もあります。

東日本大震災の際、「微力でも無力ではない」という表現がSNSでよく用いられました。それは災害救援や復興支援だけに通じるものではありません。このプロジェクトでは全員が一同に会する場が少なくとも、それぞれの力を寄せていってください。それが結果として、他人にやさしく、自分に厳しく、誠実に生きていく、教養の高い人格を形成することになるでしょう。